

げんきっこ

NO.11
2011.3

岐阜聖徳学園大学附属幼稚園



風や土の匂いに柔らかさを感じ、草木が一斉に芽吹きはじめました。今年も卒園・修了の時を迎えるにあたり、子ども達の逞しさと旺盛な生命力に感動を覚えています。幼児期の成長は本当にめざましく、できなかったことができるようになる喜びは自信に、仲間と力を合わせて取り組む体験



は思いやりの心や協調性を育んできたのではないのでしょうか。

この時期にここで一緒に過ごした仲間たち、新しい春の訪れと共にやってくる新しい環境の中でも自分を精一杯、発揮してほしいと願っています。

「子どもと共に、確かな成長を手にしてください！」

園長 岡本 裕一

私の長男と長女が小学生のころ「アメリカインディアンの教え」という本が話題になりました。覚えてみえる方もおみえになると思いますが、1990年頃にアメリカのドロシー・ロー・ノルト博士の著書「子どもが育つ魔法の言葉」にある「子は親の鏡」の詩の一部からの抜粋をもとに、加藤諦三氏が自分の生い立ちを語りながら、子育て...特に父親の在り方についてを問題提起した本でした。その中に「子どもを育てる11の教え」というものがありました。

- 1, 批判ばかり受けて育った子どもは非難ばかりします。
- 1, はげましを受けて育った子どもは自信を持ちます。
- 1, 人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします。

...

この本を読んだ時、教員としてではなく親として、真剣に悩みました。自己嫌悪に陥りました。自分は自分の子どもに、まさに子どもをだめにしていくような接し方しかできていないのではないかと...子どもが失敗をすれば、その原因をはっきりさせ、自己批判を厳しくさせました。成績が悪ければ、努力不足を指摘し、激しく叱責をしました。友達とのトラブルがあると、人としての至らなさを糾弾し、人格否定をしました。どうしても、特に長男には期待感が大きく「こう育ってほしい！」という願いが強すぎたのでしょうね。きつく当たっていたように思われます。そんな時にあの「11の教え」に接しました。そして、今の自分の、父親としての在り方を見つめ直しました...少し長男への接し方を変えてみようかなと思いました。

前置きが長くなりましたが、子育ての中では、親の願いとかけ離れたところに子どもの姿が行き着いてしまうことが度々あります。そんな時、大切なことは、親が意地を通そうとするのではなく、立ち止まり、親自身の在り方を、冷静に、客観的に見つめ直してみることにしたいと思います。私にとっては、あの本を読んだ時が自分の子育ての大きな見つめ直しの時だった様に思えます。(ただ、あの当時の私にとっては大きな揺さぶりでしたが、今はあの本に対しては否定的な捉えもあるようです...時代が移れば価値観も変わります。それぞれが、自分なりの立ち返りの原点が見つけれられると良いですね。)



園長先生の抱っこが嬉しかった！

子育ては「親としての深い愛情」で子どもと共に歩んでいけば十分だと思っています。「これをやっていけば間違いない！」などといったマニュアルがあるわけではありません。形式論で子育てができるわけありません。許されないことをしたら、親としての怒りや、悲しさを思い切りぶつけてやってください。良いことをしたら、よろこびや感謝の気持ちを、精一杯表現してやればいいと思います。その時々正直な親の気持ちを、率直に伝えてやることだと思います。だけど、親の威厳や意地にこだわりすぎず、親として「今の自分でもいいのか...」という視点だけは持ち続けて下さいね。この先、多感な時を迎える子どもたちにとって、この姿勢が大切だと思いますよ。

子どもと一緒に歩んでいる幸せに感謝しながら、子どもの成長を温かく見守ってやって下さい。子育てを楽しんでください！

四季を感じながら

主任 川村 弘子

私は毎朝、遠くにそびえ立つ伊吹山を見ながら車を運転しています。寒いと思う日は山が白くなり、お天気が悪い日はぼんやりと見え、反対に空気が澄んでいる日は鮮明に見えたりします。私は山間の小さな村で育ったので、山が間近に見えるのはごく自然な環境でした。だからきっと今でも山が恋しく思えるのでしょう。もうすぐ私の大好きな景色が見られます。澄み渡る青空、緑の伊吹山、その手前には堤防に咲く桜、菜の花、新緑の草木...春の色が一斉に輝く時です。

思えば幼稚園に通い始めて30数年、いつも四季を子ども達と共に感じながら生活してきました。肌で気温を感じ、季節の行事や活動を楽しみ、植物や生き物など自然にも触れることができました。そして、そんな中で子ども達の成長を間近で見られることが私達の最大の喜びでもあったと思いま



境川緑道公園で春の自然に触れて

す。今年も卒園、修了の時期を迎え、入園した頃や進級した頃の様子を思い起こしながら子ども達一人ひとりの大きな育ちを改めて感じています。

大切な幼児期を私達に託していただいたこと、いつの時も温かく見守っていただいたことに深く感謝をします。無限の可能性を秘めた子ども達の未来が明るく、これからも一步一步確かな歩みができることを願っています。

ありがとうの花

さくら組担任 前川 佳美

「ありがとうっていったら みんながわらってる そのかおがうれしくて なんどもありがとう」これは、4月からずっと親しんできたみんなが大好きな歌です。

さくら組の保育室中に広がった廃材工作を眺めながらこの歌を口ずさんでいると、一年間の「ありがとう」が思い出され胸がいっぱいになります。たくさん話をして、たくさん笑って、時には怒って泣いて...数えきれないほどの思い出がこの廃材工作には詰まっています。思いのすれ違いや衝突からトラブルになることもありました。

しかし、それを経験したことで友達を思う気持ちも芽生え、一人ひとりがクラスの大切な存在になりました。優しい気持ちで友達と接するうちに「ありがとう」この言葉も増えてきました。「ありがとう。」「どういたしまして。」今ではこんな会話があちらこちらで聞こえてきます。そして、そこには笑顔が輝いています。「ありがとう」素敵な言葉ですね。

さくら組のみんな、たくさんの思い出をありがとう。

廃材工作から生まれた「みかんマン」に感動！



一歩ずつ

もみじ組担任 野村 敦子

「先生、見て！」この一年の間に、子ども達は何度も新たな一歩を踏み出してきました。お泊り保育や運動会、生活発表会など行事だけでなく、遊びの一つとして取り組んできた縄跳びや竹馬も新たな一歩を踏み出すきっかけとなった活動の一つです。

「楽しみだな。」という期待、「できるかな?」「大丈夫かな?」という不安な気持ちが入り混じることが多かったと思います。その挑戦が必ずしもすぐに成果として表れるばかりではありません。思うようにいかないもどかしさを感じたり、挫折そうになることもありました。そんな時は、立ち止まったり寄り道をしたりしました。しかし、ひと休みしている時も、子ども達の心は常に前を向いて動いているのです。友達の頑張りに刺激を受けたり、目標を達成した時に一緒に喜んだりしながら次に向かうエネルギーを充電しているのです。

4月からまた新たな生活が始まります。ドキドキ・ワクワクと期待をよせ、エネルギーに生活し、なりたい自分に一歩一歩近づいていってほしいと思います。



小さい子が憧れた運動会の組体操



「ともだち」

こじか組担任 川口 貴恵子

子ども達はたくさんの友達と出会い、そこで人間関係を形成・構築していきます。はじめはぎこちない関係からのスタート。たくさん失敗して、たくさんへこんで、たくさん泣いて…。でも、心が通い、信頼関係ができると、いっぱい笑い、いっぱい語り、いっぱい抱き合うようになります。

これから先、友達の位置は重要、大切な存在になります。だから、幼児期から友達作りの練習、周りの人に優しくする練習です。みんな幸せになりたいですよ、自分が幸せになりたいなら、「自分が出会った人を幸せにしたい」、そんなエネルギーを今から蓄えていって欲しいのです。

子ども達には、前進しかありません。「成功」か、「成長」しかないと感じている今だからこそ、つけて欲しい力、大人が伝えていかなくてはならない事があります。「心の成長」をうまく導いていく力が必要かもしれません。心の強い子は、自分を信じ、友達を思い、心に夢を持ち続けることができます。だから、これから先も、たくさんの友達に出会い、出会えた人はみんな宝物と思えるような心の広い人になってくれることを願います。



お家ごっこが楽しかったね

新しい生活

きりん組担任 浅野 美香

進級に向け、壁画をはがしたり、床についたインクを拭いたりと保育室の整理整頓を始めた時のことです。子ども達は環境の変化に敏感ですから、保育室の様子が少し変わる度に「何してるの?」「なんで取っちゃうの?」と大騒ぎをしました。「次の年中組さんが気持ち良く使えるように」と説明をすると納得し、積極的に手伝いもしてくれましたが、日に日に保育室が片付いていくのは私もどこか寂しいような気がしました。

それでも友だちと「次はさくら組かもみじ組どっちがいい?」という会話が盛り上がる姿からは



みんなで植えたチューリップの球根 花が咲く日が待ち遠しいです。

宝 物



きく組担任 小田 奈津美

ある日の給食の片付けの時の事です。「先生～これ廃材にしといて。」一人の男の子が、チーズの包み紙を差し出しながら私に言いました。「うん?何なに?」私はすぐに理解できず聞き直すと、「先生いつもプリンのカップとか洗って廃材にするやん。これも廃材にしといて。」そう言うとパッと包み紙を渡し、行ってしまいました。包み紙を差し出されて、まず「ゴミ」だと思ってしまった私。しかし、子ども達にとってはとても大切な材料の一つなのです。なんだか本当に驚き、何でも大切な材料にすることができる、そんな子ども達の豊かな発想や力を改めて感じた出来事でした。

この一年間、私はきく組の子ども達と一緒に廃材遊びの素晴らしさをたくさん感じる事ができました。自宅では廃材を集めることがすっかり習慣になり、「これを使ってみんなは何を作るかな」と思うと、園に持って行くのが楽しみになりました。出来上がった作品は、どの子にとっても宝物のようです。これからも廃材遊びを通して多くの楽しさや驚き、喜びを感じながら、素敵な宝物を増やしていってほしいと思います。



べったん べったん おもちつき

「やればできる」

ゆり組担任 國枝 哲子

「先生、見てて。」「先生できたよ!」と、子どもが嬉しそうに駆け寄ってきます。その姿に両手を広げ懷に抱き、「頑張ったね。」「すごい、やれば何でもできるんだね。」と共に喜びあいます。子ども達は、その瞬間、(頑張ったことを認めてくれた)(やればできる)という気持ちが芽生え、自信となります。やればできる自分(自己肯定感)に気付くこと、それは生きる自信、自立への基礎につながると言われています。



幼児期の子ども達は、そんな力をいろいろな経験を通して、体いっぱいに貯める時期ではないでしょうか。その力こそが、失敗したり、壁にぶつかったりした時の立ち向かえる力になるのだと思います。

卒園する年長さん、3年間いろいろな経験を通して、体いっぱいの自信をもって、小学校でもいろいろなことに挑戦してください。一つ大きくなる年中さん、年少さん。さあ、今度はどんなことができるようになるのかな。先生達はいつも両手を広げて見えています。



みんなで力を合わせてお芋掘り 大きなお芋が出てきたよ!

感謝の気持ち

ひまわり組担任 近藤 愛

今まで幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・就職と節目を経験し、また今年度大きな節目を迎えることとなり、しみじみと出会いや別れを考えさせられる今日この頃です。いったい今まで何人の人に出会い、支えられてきたのかなぁと考えると様々な人との繋がりや、偶然の出会いが見えてきます。そして、一つひとつの出会いが今の私にとって大切なものであり、感謝の気持ちでいっぱいになります。



みんなで雪だるまを作ったよ

ひまわり組の子ども達も入園して新しい友だちと出会い、思いやり・憧れ・認め合い・競い合いなど、いろいろな気持ちを経験しどの子も大きく成長した姿を見せてくれました。そんな子ども達のおかげで毎日楽しく、素敵な一年を過ごすことができました。毎年、素敵な子ども達との出会いに感謝し、自分もがんばろうと思えた日々は、私にとって宝物です。これからたくさんの人と出会い・別れを経験する子ども達。“出会えてよかった”と思える人とたくさん出会い、そうしてもらえる人になってほしいなぁと願っています。

ママにはなれないけれど

たんぼ組担任 辻 有紀

「ママ！・・・じゃなくて、ゆき先生。」と呼び間違えられることがよくあります。子ども達にとって母親は自分のお腹の中で守り育ててくれた唯一無二の存在。だから、寂しい時はいつだって「ママに会いたい・・・。」と言って泣くんですよ。そんな子ども達の大好きなお母さんから「最近家で子どもが私のことをゆき先生って言うんですよ。」というお話を聞きました。

“保育者は子ども達にとって先生であり友だちであり、そして母親のような存在である”と習い、私もそんな先生になりたいと思いながら毎日子ども達と接しています。しかし、降園時間になりお家の人を迎えにくると「先生バイバイ！」と実にあっさりと帰っていく子ども達。だからこそ今回の話には驚いたと共に物凄く嬉しくなりました。そして、もっと子ども達の思いを大切に受け止められる保育者になりたいと感じました。

私に様々な経験をさせ、いろいろなことを教えてくれる子ども達に感謝しながら、保育者3年目の春を迎えたいと思います。



ママに負けにくい笑顔が素敵！

心の種

年少組補助 川崎 紀子

小学生の頃から小さい子が好きだった私は、将来は子どもと接する仕事がしたいと思い、幼稚園の先生になることができました。



私には小1の息子と年中の娘がいます。朝、息子を送りだしたと同時に私も娘も車に乗り、保育園へ送ってから幼稚園に来る毎日です。慌ただしい毎日ですが、幼稚園で子どもと過ごすのが楽しくて仕方ありません。それはやはり子どもが好きという一言につきます。

子ども達といると、みんななどの子もそれぞれ違った好きなもの、得意なものを持っていて、それをしている時の表情は本当にキラキラ輝いています。時には最初できなくて嫌いだったのが、何

度も挑戦してようやくできて好きになるものもあると思います。子どもの頃の好きな気持ちは心の種を蒔くことだと思います。私も子ども達と一緒に過ごし、心の種をたくさんわけてもらいました。

キッズパーティー

事務 脇田 成子

2月の個人懇談のキッズは50名前後の参加があり、ホールで遊んだりおやつを食べたりして過ごしました。3歳から6歳までの子ども達が一緒のため、怪我などしないために遊びのルールを確認してから、ままごと・折り紙・製作・お絵かき・ブロック・などいろいろなコーナーに分かれて好きな遊びが始まりました。

年齢の異なる子が同じ遊びをするため、困った事が起きなければいいのにと考えて見ていると、年長さんが小さい子の目線に合わせ優しい言葉で遊び方を教えてくれたり、折り紙などで難しい所があると手を貸してくれたり、お絵かきに夢中でクレパスが台から落ちたのに気が付き、そっと拾って落ちにくい所に直してくれたり、あちらこちらでほほえましい姿が見られ、驚くほどの心の成長に嬉しく感じました。

さり気なくお世話をしてくれる年長さん、それに付いて行って楽しく遊んでいる小さい子ども達を見ていると、年長さんが生活発表会で歌った「やさしい花を咲かせよう。君の町にもほらいつか」のメロディが浮かんで来て、私も思わず心が温くなりました。初めて参加した子から「またキッズやりたいよ」という声が聞こえた時は、年長さんのおかげだなと思いました。どの子も素敵なやさしい花が咲くよう応援したいと思います。



キッズの楽しいお弁当タイム



早いもので

ひよこバス運転手 篠田 五三郎

早いもので、もう年度末です。4月5月の年度初めから比べると、しっかりお兄ちゃんお姉ちゃんらしくなりました。私もこの一年、いろいろな行事のお手伝いをさせていただきました。四季折々の行事を通して園児の皆さんは、それぞれにいろいろな角度から体に吸収し成長されたことでしょう。

送迎バスの中でも、歌をうたったり（皆で鬼は外～とか、ひなまつりの歌とか、それはそれは大変上手です。ハンドルを握っていて天使の歌声が聞けるなんてものすごく得をした感じ）居眠りをしたり、隣とか後ろの友達とおしゃべりをしたり、じゃんけんぽんをしたり、「今日は何度かな？」と道路に設置してある温度計の温度の当てっこもします。8度かな9度かな、今日は少し寒い、暖かい、ピタリ当たった日ははしゃいだり...。「揺れますよ、掴まって」と言うと、皆が構えてそして“きゃー”と歓声。慣れて無言の時もあるし、オーバーに飛び、ふざける時もある。



若い人たちからエネルギーをもらって元気いっぱい！

ぐ行かないの？」と注意を受けます。

バスの中でも子ども達の様々な姿を見ながら、登園したり、帰宅したり、いろいろあった一年でした。卒園、進級して次年度も学校生活、園生活を通して成長されますことをお祈りいたします。

やっただけのこと

音楽教室講師 山内 友美

音楽教室の発表会、どの子どもみんな立派でした。今年もみんな素敵な笑顔でした。ありがとう！発表会の後日、あるお母さんから「子どもがとても自信を持てるようになりました」とお手紙をいただきました。

発表会のための曲を、お家で何回も何回も練習された結果です。“お家での練習を習慣づける”目標が達成され嬉しく思います。と同時に、ご家庭でのご協力に感謝致しております。上手に弾けるかどうか、自信が持てるかどうかは、練習をやったからか、やらなかったか...それだけです。やったらやっただけのことはあるものです。

縄跳びの練習を毎日毎日したら、たくさん跳べるようになりました。文字を何度も何度も書いたら、上手に書けるようになりました。“お稽古”ってそういうものです。何回も何回も練習すれば必ずできるようになります。やったらやっただけのことがあるものです。

少しずつの努力ができる子でいてください。それが明日への自信につながります。子ども達の素晴らしい明日に、たくさんの拍手をいただきました。ありがとうございました。

曲を弾く子ども達の目が真剣そのものでした。 素晴らしい明日へのスタート おめでとう！



eagle は

英語教室講師 内館 泉

動物がテーマの授業の中で、ペットが欲しいと考えている男の子の話の絵本を読みました。このお話には ostrich, lion, giraffe など様々な動物が登場するのですが、eagle を紹介した時にそれが鷹か鷲かそれともコンドルなのか、子ども達の中で意見が分かれました。鷹や鷲などの名前を知っていることに私は感心したのですが、それ以上に驚かされたのは、子ども達の必死に主張する姿です。「絶対にあれはコンドルだってば！」「ちがうって鷹だよ。」と、絵本そっちのけで言い合っていました。子ども達はそんなこと気にしないだろうと思っていた私ですが、6歳ともなるとしっかりと自分の意見を持っているのですね。

たくましく成長した年長さんの一面を見せられ、小学校に入学してもこれなら大丈夫と確信しました。



いずみ先生のリアクションが楽しいハローの時間

体育教室講師 山下 晋

さくら組、もみじ組のみなさん ご卒園おめでとうございます。

体育教室ではたくさんの運動や遊びをしましたね。小学生になったら、もっとたくさんの友達といっしょに、もっとたくさんの遊びをすることができます。はじめは、なかなか上手にできないこともあるかもしれませんが、『できないからいやだなあ...』と思わないで、『よーし、できるようになるぞ！』という強い気持ちをもってがんばってください。いっぱいからだを動かして、たくさんご飯を食べて、しっかり寝て、元気な小学生になったみなさんに、また会えることを楽しみにして

います。

在園児のみなさんは、今よりも大きくて、カッコいいお兄さんやお姉さんになれるように、いろいろな運動や遊びの準備をして体育教室に行くので、楽しみにしてください。



いろんな運動遊びに挑戦して、体を動かすことが大好きになりました。



体操クラブ講師 平野 朋枝

卒園おめでとうございます。

今年、卒園の皆さんとは年中の時から体育教室や体操クラブで関わらせていただきました。年中の初めは、あまり元気に運動に取り組めなかった子どもたくさんいましたが、続けていくうちに、体がしっかりしてきて、運動に対して「やろう」という気持ちが強くなりました。私が「用意！」と言うと、真剣なまなざしでスタートのポーズをとる姿はとても格好良く、また頼もしく感じられます。そんな皆さんと一緒に運動することができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。これからも、運動が好きで、たくさん外で遊んでほしいと願っています。



げんきっこの最終号は、この一年間、子ども達に関わってきた職員による寄せ書きを掲載させていただきました。一人ひとりの職員の思いや願いがいつの日か子ども達の心にも伝わることを願っています。

社会の中では楽しい事ばかりではなく、辛いことや苦しいことがあるかもしれません。今の自分の豊かな生活に感謝し、これからも友だちや家族、先生や周りの人たちなど多くの人と支え合いながら生きていって欲しいと思います。

一年間、至らないこともありましたが、保護者の皆様にご理解、ご協力いただきながら無事に今年度が終わられることを感謝いたします。 ありがとうございました。



平成 22 年度 附属幼稚園
職員一同

